

第4回 平塚市総合計画審議会

議事録

日時 令和2年1月16日(木) 14時30分～15時15分

場所 平塚市役所 本館3階 302会議室

出席者 21名

小崎委員(会長)、田中委員(副会長)、水谷委員、成瀬委員、白石委員、常盤委員、中村委員、鈴木委員、秋山委員、宮崎委員、近田委員、森蔭委員、藤井委員、森委員、米村委員、須藤委員、永田委員、出村委員、佐藤委員、相原委員、丸山委員

市出席者 3名

事務局 6名

傍聴者 0名

「議事」

平塚市総合計画(改訂基本計画)2次素案に対する答申(案)について

【会長】前回の審議会で落合市長から「諮問」を受けた後、2次素案に対する委員意見を私と事務局で整理し、「答申(案)」をまとめさせていただいた。本日は、この「答申(案)」に対し、御出席の委員の皆様から御意見をいただき、最終的なものとして完成させたいと考えている。本日の会議が最後になるので、委員の皆様の御協力をお願いしたい。

それでは、私の方から「答申(案)」の大まかな説明をさせていただく。

まず資料1「第3回平塚市総合計画審議会における各委員の意見とその対応」については、こちらは前回の審議会で委員の皆様からいただいた意見を私と事務局で「答申(案)」に反映し、「2次素案に反映済み」、「参考」に整理させていただいたものとなっている。次に資料2「平塚市総合計画(改訂基本計画)2次素案について(答申(案))」については、資料1の中で、「答申(案)に反映」とした意見について、「人口減少」、「まち・ひと・しごと創生」、「SDGs」の視点から取りまとめたものが、資料2の「答申(案)」となっている。

それでは、これより御意見をいただくが、この「答申」は「2次素案」に対して、意見を述べるものであり、「2次素案」の具体的な文言修正や修正方法を指示するものではないことを御承知置きいただきたい。御意見や御質問があったら、挙手をお願いしたい。

【委員】基本的な質問で恐縮だが、平塚市の人口が25万8,000人と言われる中で、今後、少子高齢化、人口減少が見込まれるが、平塚市として何人の人口であることを期待しているのか。人口が減ったときに魅力あるまち、住んでもらえるようなまちを続けていこうというスローガン、平塚市の姿勢は分かるが、ここにいる委員の方々がどのように考えているか協議しても良いのではないかと思い、投げかけをさせてもらった。

【会長】いわゆる「最適人口」ということだと思うが、これを算出するのは相当難しいと考えている。というのも、いろいろな条件の制約があるということと、どこを時間軸に設定するのかということである。

また、国で推計している人口について、理論的に裏付けるものがない。これから人口推計に係る論文で取り上げていこうという話もあるが、現時点で知る限りではそのような論文は出てきていない。

このまま何もせずにいると人口減少していくが、(平塚市は)「田舎の中の都会」、「都会の中の田舎」ということで、人口が増え過ぎてもよろしくなく、難しい舵取りが必要となる。少なくとも平塚市周辺地域では、人口維持を目指していくことになると思われる。ただ、今後25年から30年にかけて、75歳以上の人口が急激に増えてくるので、少子化とともに高齢化にどう対応していくかが課題となる。

現時点では、平塚市は近隣市に比べ財政は落ち着いている状態であるため、今の時点で様々な対策を進めていくことが重要である。

【委員】大変危惧しているのは、平塚市が人口25万人を維持するということであれば、その対策が必要となり、そうではなくて、人口を確保していこうということであれば、それに見合うだけの対策が必要である。今の時点では良いとしても、将来を考えたときに、今から策を講じたほうが良いのかどうか、皆様の意見を集約できればと思い発言した次第である。

【会長】目標としては人口25万人を維持するということになるが、「答申(案)」に記載してあるとおり、今後25年間で人口が20%程度減少し、約20万人程度になり、その中で高齢化が進行していくことが見込まれる。人口が減少して高齢化が進むので、就業率あるいは就業者数が減るので、インフラを提供する市としては財政面で深刻な問題となる。また、設備投資あるいは(設備の)更新投資にも支障が出かねないので、それを緩和する施策を打っていくことが今一番重要である。

【副会長】委員から大切な指摘があったと思う。というのは、以前「消滅可能性都市」の話があったが、これは他人事ではないと考える。大きな人口動態は現実のこととして考えていかなければならない。ただ、委員が指摘のことは、人口動態はさることながら、平塚市としてこれからどういった姿を描いていくのかという、グランドデザインはあっても良いのではないかということであったかと思う。(平塚市の人口)25万8千人というのを爆発的に増やすのはなかなか難しいと考える。

ただ一方で、住民に対して提供する様々な社会資本のサービスなどについても、従前の、または、それ以上のサービスを提供しなければいけないということもある。そうすると現実として、かかる費用と市民の負担とを考えると、なかなか難しい計画を立てていかなければならない。

1つの考え方として、これから日本全体で見えていく人口動態で、少子高齢社会が進み、高齢者人口の増加に伴う実際の働き手の数は減っていく中で、社会資本の提供するサービスも、将来的にはダウンサイジングも考えていかなければならない。平塚市の財政基盤は現時点においてしっかりしていると思うが、5年、10年の話ではなくて、20年、30年先のことを考えていくとなると、このままでは立ち行かなくなる。つまり、20年

先に必要なことは、今から手を打っておかないと、間に合わないという認識である。ただ、改訂基本計画は、これから4年間の施策のことが盛り込まれており、ある程度のポイントは指摘ができたとは思いますが、委員の話は、我々の共通認識として、これから平塚市を20年後どう描いていくのか、ある種の危機感の共有であり、大変重要な指摘であったと思う。

【委員】答申(案)について、これまでの各委員の意見がしっかり集約されているという認識であるが、今後、答申が出された後は、どのようなスケジュールとなっていくのか。

【会長】8年間の基本計画の中で、今回は4年間で見直しの時期であり、この後4年後にもう一度8年間の計画を策定していくという形で動いていくという認識であるが、事務局はどうか。

【事務局】今回の見直しは、今後4年間の計画の見直しで間違いなく、4年後に次の計画を策定するという事(計画期間を繰り上げる等なければ)おそらくそうなると思われる。ただ、次の4年後の計画については、計画期間が8年になるということについては、まだ確定しておらず、その策定のタイミングで決めていくこととなる。

また、もっと短期的な話をすると、審議会からの答申をもらった後は、答申の内容を尊重させてもらい、例えば、基本計画の中の文言が変わるなど、その内容を反映することを考えていきたい。最終的には2月の策定を目指しているのですが、その際には、委員の皆様にも冊子をお送りしたい。また、答申についても、まとまったものができたら、委員の皆様にお送りしたい。

【委員】答申(案)については、特に問題ないと思うが、2020年を迎え、特に今後10年間は非常に大事な時期なので、今後10年間の中で出てくるであろう事柄を踏まえて仕上げてもらいたい。

【会長】最終的には、平塚市がどのようなまちづくりの長期的なビジョンを持つのかということであり、例えば、再度、審議会などを立ち上げたり、あるいは市民の意見を聴いたりしながら、市として運営していくことが必要である。

【副会長】大問題も含めて小問題まで、かなりの頻度で行財政改革を行っている自治体もある。行政・財政の現状の把握と、その進捗管理という側面がある。来年度から改訂した計画がグランドデザインとして動き始めたときに、分野別の施策がしっかりと進んでいるかどうか、場合によっては、時代や環境の変化によって、見直したり、少し修正をしたりすべきである。一度計画を作ったからといって、4年後まで何もせずに放置しておくということではない。今後の課題となるが、何かの形で進捗管理をしていく必要があり、例えば、本当に進んでいるのかということ市議員の方々も折々で確認し、市議会でも質問してもらおうなど、市民の方々に本来あるべきサービスをしているかどうか、あるべきサービスがないとしたら何が足りないのか、また、サービスを提供するといっていたが、情勢が変わってきたということであれば見直すことも必要である。

【委員】私も答申(案)については、特に問題ないと思うが、答申(案)にもあるように「市民目線」で、市民が分かりやすいように記載してほしいと書いてある。計画が策定されると、各公民館であるとか、市民一人ひとりの手元に届くということはないかと思う。平塚市がこれから進めていく方向について書いてあるものになるので、是非市民一人ひ

とりが計画の内容について、少しでも興味を持ってもらったり、目を通してもらったりして、その中で新しい声が出ることもあると思う。市民に手に取ってみてもらえるような計画にしてもらいたい。

【会長】それでは、意見は出尽くしたようなので、最終的な調整は私に一任させていただくということでよろしいでしょうか。

【委員一同】異議なし。

【会長】ありがとうございます。事務局と調整して完成させた答申書は、私と田中副会長で、後日、落合市長へ手渡してまいります。なお、「答申書」は、委員の皆様にも事務局より送付させていただきます。では、以上で議事を終了とさせていただきます。

以 上